

# 「城下町交流拠点施設」設計者選定プロポーザルの結果について

竹田市

## 1. プロポーザルの概要及び選定結果

竹田市は、中心市街地である旧城下町エリアに計画中の「(仮称)竹田市コミュニティセンター」(以下、「コミュニティセンター」という。)と「(仮称)竹田城下町・岡城跡歴史文化交流センター」(以下、「歴史文化交流センター」という。)の2施設からなる『城下町交流拠点施設』を設計する設計者を選定するためのプロポーザルを実施しました。その実施にあたっては、第1次審査と第2次審査からなる2段階審査方式を採用するとともに、学識経験者と市民代表で構成する「城下町交流拠点施設設計者選定プロポーザル審査委員会」(以下、「審査委員会」という。)を設置し、ご意見をいただきました。

2月13日(月)の第1次審査(書類審査)では、9の参加者から設計提案書が提出され、この中から第2次審査に進むものとして6者を選定しました。そして、2月27日(月)の第2次審査において、公開によるプレゼンテーション及びヒアリングを実施した上で、次の通り最優秀者及び次点者を決定しました。

### 【選定結果】

●最優秀者：受付番号⑧

株式会社 隈研吾建築都市設計事務所  
(展示設計協力 株式会社フジヤ)

●次点者：受付番号③

株式会社 平田晃久建築設計事務所  
(展示設計協力 株式会社 SP フォーラム)

## 2. プロポーザルの実施経緯

- ・平成28年11月1日(火)に開催した第1回審査委員会では、「城下町交流拠点施設の設計者選定に係るプロポーザル実施要領」の内容について検討が行われました。
- ・第1次審査では、設計の基本的な考え方や計画図等を記載した設計提案書の提出を求め、平成29年2月13日(月)に第2回審査委員会を開催し、「適格性」「独創性」「実現性」などの視点から総合的な評価が行われました。
- ・第2次審査では、設計業務の実施方針を記載した様式8の提出を求め、平成

- 29年2月27日(月)に開催した第3回審査委員会において、応募者によるプレゼンテーション及び審査委員によるヒアリングを公開で実施した上で、「適格性」「独創性」「実現性」などの視点から総合的な評価が行われました。
- ・上記のような審査委員会における評価も踏まえた上で、最優秀者及び次点者を決定しました。

平成28年11月1日 第1回審査委員会(実施要領について協議)  
平成28年12月19日 プロポーザル手続き開始の公告(募集開始)  
平成29年1月20日 参加表明書の提出期限 → 9者から参加表明  
平成29年2月7日 提案書等提出図書提出期限 → 9者全てから提出  
平成29年2月13日 第2回審査委員会(第1次審査/書類審査)  
・・・第2次審査に進む6者を選定(3者落選)  
平成29年2月27日 第3回審査委員会  
(第2次審査/公開プレゼンテーション・ヒアリング)  
・・・6者の中から最優秀者と次点者を決定。  
平成29年3月1日 選定結果の公表(竹田市HP上)

### 3. 審査委員会

審査委員会については、都市計画・建築・文化財・文化施設・商工観光・行政の各専門分野において、豊富な知識や経験を有する6名の委員にご協力をいただくとともに、竹田市城下町再生プロジェクト委員会コミュニティセンター部会より部会長に委員の1名になっていただきました。

また、委員長には、委員の互選により、竹田市城下町再生プロジェクト委員会の委員長でもあります、東京大学教授の中井氏が選出されました。

#### ●審査委員長

中井 祐 (東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 教授/都市計画・景観)  
※竹田市城下町再生プロジェクト委員会委員長

#### ●審査委員 (50音順)

井上 隆 (竹田市観光ツーリズム協会 協会長/商工・観光)  
是永 幹夫 (ホルトホール大分みらい共同事業体 統括責任者/文化施設)  
島岡 成治 (日本文理大学工学部建築学科 教授/建築)  
段上 達雄 (別府大学文学部史学・文化財学科 教授/文化財)  
野田 良輔 (竹田市副市長/行政)  
吉弘 央 (竹田市城下町再生プロジェクト委員会コミュニティセンター部会長)

## 審査委員会 講評

城下町交流拠点施設設計者選定プロポーザル審査委員会  
委員長 中井 祐

はじめに、非常に短い検討期間のなかで、本プロポーザルに応募くださった全ての提案者に、心より謝意を表したいと思います。単純な観点からの優劣の評価に還元できない多様な案がそろい、実り多い審査になったことを確信しています。審査委員会を代表して、厚く御礼申し上げます。

6者の公開プレゼンテーションの後に行われた第2次審査では、各委員個別の採点結果を集計して仮の順位付けを行った後、6案全てに対して個別に長所・短所の議論を行った上で、再度順位を吟味し、最終的に最優秀者と次点者を選定しました。

本プロポーザルの要点は、規模も機能も性格も異なる、しかし近接する2つの施設を、同じ設計者に託すという点にありました。建築物としての機能・性能を個別に確保した上で、まちづくりという文脈のなかでいかにして連動させられるかが、城下町再生の戦術上の眼目であり、そのためのアイデアの具体性と実現性が、審査の大きな焦点になりました。

**株式会社隈研吾建築都市設計事務所**の案は、上の要点を的確に理解した上で、旧城下町の空間特性を丁寧に読み込んだ提案になっており、それぞれの建物の機能・性能・意匠、2つの建物の在り方を統合するわかりやすいコンセプト、展示デザインの方角の具体性、実施設計に向けて案を柔軟に展開していこうとする姿勢など、総合的にみて非常にバランスよく城下町のまちづくりの課題と要望に込めている点が高く評価され、満場一致で最優秀に選定されました。特に、「歴史のマワリミチ」、「音楽のマワリミチ」など、周辺の文脈に応じた各建物の空間提案は、魅力と説得力に富むものでした。ただ、敷地北側の水琴館通り及び敷地東側の隣家に対する歴史文化交流センターのボリューム（高さ含む）が圧迫感を生むのではないかと、という懸念が、審査委員全員から表明されたことは、今後の設計プロセスの中でぜひ解決していただきたい点として、つけ加えておきたいと思います。

次点に選定された**株式会社平田晃久建築設計事務所**の案は、全体に良く考えられたプランニングと、小さな屋根の集合体で場所をつくっていこうとするアイデアの組み合わせが、好印象を生んでいる提案です。ユニット化された屋根システムに拘泥しすぎでは、という懸念もありましたが、敷地の課題に対して素直に向き合っている設計者としての姿勢が、設計プロセスの中で生じるであ

ろう様々な課題に柔軟に対応できる高い資質を示しているものと評価され、次点に選定されました。

**株式会社坂茂建築設計**の提案は、建築デザインとしてのユニークさは頭ひとつ抜けており、その点では第1次審査から一貫して好評価を得ていました。しかし、高齢化が顕著な竹田の町にあって、必要に応じて組み替える紙管パビリオンを市民が使いこなせるかどうか懸念が大きいこと、また、歴史文化交流センターにおけるギャラリーチューブと水盤、及び提案の核心である張力構造を用いたふたつ大屋根について想定される基礎・構造躯体のコストや維持管理のコストなど、提案全体においてフィージビリティスタディの精度に強い不安が残ることから、次点の座に届きませんでした。

**川添・宮崎・トータルメディア設計共同体**の提案は、城下町の歴史的空間や風景に対する共感的な姿勢が印象的でしたが、駐車場配置のわかりにくさ、溶結凝灰岩を大胆に用いた外観に対する違和感など、具体のデザイン提案において、強い共感を得ることができませんでした。

**チームラボアーキテクト+あい設計共同体**の提案は、城下町の町並みを大切にした建築物の在り方を示しながらも、コンセプトの骨子でもあるデジタル技術の活用が、竹田ならではの歴史性や空間性をひきたたせる論理まで行き届いていなかったことが惜しまれる提案でした。

**FISH+ARCHITECTS 一級建築士事務所**の提案は、コミュニティセンターについては市民の要望にフレキシブルに対応可能な案として高評価を得ましたが、歴史文化交流センターの特徴が不明瞭で、冒頭に記した本プロポーザルの要点に対する解答としても充分とみなされるには至りませんでした。

近世の都市基盤をベースにしなが、既存の公共施設群の機能改良とその連動性によって空間の価値の再生を図ろうとする竹田市の取り組みは、あまり先例のない独自のものです。この取り組みが魅力的な竹田城下町につながるかどうかは、今後いかに開かれた場で両施設の設計内容が議論されるかどうかにかかっていると思います。設計の中身は、開かれた場で議論すればするほど、彫琢され、すなわち余分なものがそぎおちて、大事なものが残って洗練されていきます。そして、その過程で、市民・発注者・設計者の間の信頼関係が生まれ、竹田市のみなさんの元気にもつながっていくものだと思います。

公開プレゼンテーション当日、長時間にわたり各提案者の説明に熱心に耳を傾けておられた竹田市民の皆様に、満腔の敬意を表するとともに、歴史文化交流センターとコミュニティセンターが今後、上に記したような幸福なプロジェクトに育ってゆくことを心から願いつつ、関係者のさらなるご努力に期待する次第です。